

科 目	畜産経営学	講義 3 単位 演習 単位	45 時間 時間	形態:講義	畜産研究科
講義時期:前期・後期		形態:講義	実務経験者による講義の有無:有		
担当講師	中島純子 水流正裕 清沢敦志 畜産試験場職員 先進農家				
授業の到達目標	畜産経営における経営費、収益、所得について理解を深めるとともに、施設整備に費用が掛かることや減価償却について概要を理解する				
授業の概要	経営規模別、経営形態別の経営内容について				
使 用 教 科 書	長野県農業経営指標、「わかる」から「できる」へ複式農業簿記実践テキスト				
主 な 参 考 図 書	日本養鶏協会資料 農業経営統計調査 肥育豚生産費 他				
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、出席日数等から総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる(講義内容に関するレポートの作成を課す場合あり)。				

授業計画			
項 目	教 授 内 容	講義	演習
1 酪農経営	長野畜試酪農部門の繁殖状況を調査し、成績をまとめ、そこから優れている点、改善すべき点、その改善方法などについて考える	4	
2 肉用牛経営	長野畜試肉用牛部門の繁殖状況を調査し、成績をまとめ、そこから優れている点、改善すべき点、その改善方法などについて考える	4	
3 養豚経営 ○豚肉生産費の内訳 ○養豚収益試算	生産費内訳の理解と生産費低減のための手法の解説 生産成績の向上による収益の増加額を試算	4	
4 肉用鶏経営 ○ブロイラー生産の経営概要と生産コスト ○地鶏及び銘柄鶏経営について	インテグレーターの概要と生産コストの解説 地鶏生産における経営戦略と課題の解説	2	
5 採卵鶏経営 ○採卵養鶏の経営概要と生産コスト	生産コスト内訳及び飼料価格による影響について解説	2	
6 自給飼料の利用	牧草・飼料作物の栽培と利用 子実用とうもろこし・飼料米の生産と家畜への利用 自給飼料の活用と経済性 最新の自給飼料生産設備、作業機械	2	
7 資源循環	自給飼料・未利用資源の家畜への有効利用 堆肥の農地への還元と飼料作物栽培 堆肥化過程における地球温暖化ガス等の発生	2	
8 専攻畜種経営学	自分が理想とする畜産経営について 専攻畜種についての経営試算	10	
9 マーケティング論	先進農家へ出向いて6次産業化等の講義演習	15	

科 目	畜産経営学	講義 単位 実習 1 単位	時間 45 時間	形態:実習	畜産研究科
講義時期:後期		形態:実習	実務経験者による講義の有無:有		
担当講師	試験場公開(畜産試験場職員) 先進農家 青年農家他				
授業の到達目標	現地を主体に実務経験者からその経験談を聞き、今後の自分の就農に役立てる。				
授業の概要	実習				
使 用 教 科 書	なし				
主 な 参 考 図 書	なし				
成績評価の方法	試験ないしレポートにより50点以上を合格とし、次のとおり評価する 100～80点:優 79～60点:良 59～50点:可				

授業計画			
項 目	教 授 内 容	講義	実習
1 試験場一般公開	試験場公開時に一般県民・消費者と触れ合う機会をもつ。		21
2 県内先進農家視察研修	当校卒業生の中から、先進的経営をしている農家を選定し、先輩からの経験談を主体にその経営を学ぶ。		8
3 明日の長野県農業を担う若人の集い	長野県内の若手農業経営者と懇談する機会を持ち、将来の自分の就農の参考にする。		8
4 2024養鶏養豚総合展	2年に一度の展示会に参加して養鶏と養豚の飼飼養に関する最新の情報を収集し、知見を得る。		8

科 目	家畜改良論	講義 1 単位 演習 単位	15 時間 時間	形態:講義	畜産研究科
講義時期:前期・後期		形態:講義	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	大森朋子 藤森裕紀 小林憲一郎 大塚ひなこ 畜産試験場職員				
授業の到達目標	家畜の育種目標に応じた改良手法を学び理解する。				
授業の概要	家畜の改良について専攻畜種を中心として講義する				
使 用 教 科 書					
主 な 参 考 図 書	家畜人工授精講習会テキスト 国鶏ものがたり 国産種鶏を利用した銘柄肉用鶏 (社)日本食鳥協会				
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、出席日数等から総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる(講義内容に関するレポートの作成を課す場合あり)。				

授業計画				
項 目	教 授 内 容	講義	演習	
1 乳牛改良	乳牛の長命連産性を高める機能的な体型について習得する。	2		
2 肉用牛改良	各形質の遺伝率から、表現型に与える環境の影響の大きさについて理解する。その上で、改良を進めるために必要な事柄について考察する。また、経済形質に偏った改良の問題点にも触れる。	2		
3 種豚改良		2		
○豚の改良をめぐる情勢	国内における豚の改良情勢の変化について			
○育種改良	育種改良の対象となる産肉・肉質・繁殖・強健等の形質および作出・増殖方法について			
○遺伝的能力評価	遺伝的能力評価の仕組みと実態について			
4 肉用鶏改良		2		
○国産種鶏の育種改良開発について	国産種鶏の定義、国産種鶏の育種改良・開発方法について家畜改良センター兵庫牧場の役割と業務を例に知識を習得する。			
○国産地鶏の利用状況、全国各地で生産されている地鶏・銘柄鶏について	国産地鶏の利用状況、全国各地で生産されている地鶏・銘柄鶏の紹介し、地鶏・銘柄鶏の生産動向について知識を習得する。			
○ブロイラーの改良と能力について	ブロイラーの歴史、品種、改良動向、能力の推移について学習し、知識を習得する。			
5 専攻畜種改良論	専攻畜種の育種改良方向について深く学習する。	7		

科 目	家畜改良論	講義 単位 実習 3 単位	時間 135 時間	形態:実習	畜産研究科
講義時期:前期		形態:実習	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	畜産試験場 酪農肉用牛部職員・養豚養鶏部職員				
授業の到達目標	乳用牛、肉用牛、豚の栄養度判定と体型審査を体験的に学ぶ				
授業の概要	実習				
使 用 教 科 書	なし				
主 な 参 考 図 書	なし				
成績評価の方法	出席、実習態度により50点以上を合格とし、次のとおり評価する。 100～80点:優 79～60点:良 59～50点:可				

授業計画				
項 目	教 授 内 容	講義	実習	
1 生体評価(乳牛)	乳牛のボディコンションスコア判定実習		6	
2 生体評価(肉用牛)	肉用牛の栄養度判定実習		6	
3 生体評価(豚)	豚の栄養度判定実習		6	
4 生体評価(鶏)	鶏の栄養度判定実習		6	
5 生体評価(専攻畜種)	乳牛のボディコンションスコア判定実習		42	
6 体型審査(乳牛)	乳牛の体型審査実習		6	
7 体型審査(肉用牛)	肉用牛の体型審査実習		6	
8 体型審査(豚)	豚の体型審査実習		6	
9 体型審査(鶏)	鶏の体型審査実習		6	
10 体型審査(専攻畜種)	乳牛の体型審査実習		45	

科 目	家畜飼養学	講義 3 単位 演習 単位	45 時間 時間	形態:講義	畜産研究科
講義時期:前期・後期		形態:講義	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	大森朋子 安達広通 藤森裕紀 梶山環 小林憲一郎 山上怜奈 大塚ひなこ				
授業の到達目標	家畜の飼育に関する高度な知識を習得し、畜産の現状を理解する。				
授業の概要	家畜の飼養について専攻畜種を中心として講義する				
使 用 教 科 書	家畜飼育の基礎 農学基礎セミナー				
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、出席日数等から総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる(講義内容に関するレポートの作成を課す場合あり)。				

授業計画			
項 目	教 授 内 容	講義	演習
1 搾乳牛管理	経済性が最も高いとされる22～24か月令で初産分娩を行うための飼養管理。乳牛の3大疾病を予防するための飼養管理。	4	
2 育成牛管理	胎児期から初産分娩あるいは肥育開始までの子牛の成長過程の概要と飼養管理方法との関連付け	4	
3 肥育牛管理	肥育牛への飼料給与方法等ステージに応じた、基本的な肥育技術について学習する。	4	
4 繁殖牛管理	繁殖雌牛への飼料給与について、粗飼料や配合飼料の理解を深める。また、分娩前後の飼料給与や飼養管理について、理解を深める。	4	
5 種豚管理	分娩豚舎、繁殖豚舎、種雄豚舎の管理について	4	
6 肥育豚管理	品種や管理方法による生産性、産肉能力の違いについて 発育ステージに応じた飼料給与方法や飼養管理技術について	4	
7 種鶏および育雛管理	種鶏の飼養管理、育雛法の基本について学習するとともに養鶏分野におけるアニマルウェルフェアおよびスマート農業の取り組みについて理解を深める。	4 4	
8 専攻畜種飼養	専攻する畜種の飼養管理について深く学習する。	13	

科 目	家畜飼養学	講義 単位 実習 2 単位	時間 90 時間	形態:実習	畜産研究科
講義時期:前期		形態:実習	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	畜産試験場酪農肉用牛部・養豚養鶏部職員				
授業の到達目標	専攻畜種の飼養管理に係る知識と技術を習得する。				
授業の概要	実習				
使 用 教 科 書	なし				
主 な 参 考 図 書	なし				
成績評価の方法	出席、実習態度により50点以上を合格として、下のとおり評価する。 100～80点:優 79～60点:良 59～50点:可				

授業計画			
項 目	教 授 内 容	講義	実習
1 家畜飼養の基本	乳用牛・種豚・肥育豚・種鶏の飼養の基本について		66
2 飼養管理	乳用牛・種豚・肥育豚・種鶏の飼料、管理方法の具体的内容の実習		24

科 目	繁殖生理学	講義 2 単位 演習 単位	30 時間 時間	形態:講義	畜産研究科
講義時期:前期		形態:講義	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	藤森裕紀 山上怜奈 大塚ひなこ 畜産試験場職員				
授業の到達目標	家畜の繁殖生理に関する高度な知識を習得し理解を深める				
授業の概要	家畜の繁殖生理について専攻畜種を中心に講義する。				
使 用 教 科 書	家畜人工授精講習会テキスト 家畜飼育の基礎 農学基礎セミナー				
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、出席日数等から総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる(講義内容に関するレポートの作成を課す場合あり)。				

授業計画				
項 目		教 授 内 容	講義	演習
1	乳牛繁殖	乳用牛の繁殖に関係するホルモンの動態、生理作用および発情兆候発見と妊娠、分娩の管理	4	
2	肉牛繁殖	繁殖雌牛への人工授精および受精卵移植について理解を深める	4	
3	受精卵移植	受精卵移植の現状と手法について	4	
4	豚繁殖	豚の繁殖生理、発情徴候の見極めと鑑定方法、人工授精の手技と妊娠診断方法について	4	
5	鶏繁殖	鶏の雌性生殖器における比較解剖学、鳥類の移行抗体、胎児の比較発生学を理解し、繁殖を向上させるための基礎知識を習得する。	4	
6	専攻畜種繁殖生理学	専攻する畜種の繁殖生理について深く学習する。	10	

科 目	繁殖生理学	講義 単位 実習 2 単位	時間 90 時間	形態:実習	畜産研究科
講義時期:前期・後期		形態:実習	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	畜産試験場酪農肉用牛部職員 畜産試験場養豚養鶏部職員				
授業の到達目標	乳牛、肉用牛、豚の発情発見、発情鑑定、人工授精、妊娠鑑定について理解を深める				
授業の概要	実習				
使 用 教 科 書	なし				
主 な 参 考 図 書	なし				
成績評価の方法	出席、実習態度により50点以上を合格とし、次のとおり評価する。 100～80点:優 79～60点:良 59～50点:可				

授業計画			
項 目	教 授 内 容	講義	実習
1 発情鑑定・人工授精(乳牛)	乳牛の発情発見と確認		6
2 発情鑑定・人工授精(肉用牛)	肉用牛の発情発見と確認		6
3 発情鑑定・人工授精(豚)	豚の発情発見と確認		6
4 人工授精(鶏)	鶏の人工授精技術		6
5 発情鑑定・人工授精	乳牛の発情発見、確認、人工授精		24
6 妊娠鑑定(乳牛)	乳牛の妊娠鑑定		6
7 妊娠鑑定(肉用牛)	肉用牛の妊娠鑑定		6
8 妊娠鑑定(豚)	豚の妊娠鑑定		6
9 妊娠鑑定	乳牛の妊娠鑑定		24

科 目	家畜家畜論	講義 3 単位 演習 単位	45 時間 時間	形態:講義	畜産研究科
講義時期:前期		形態:講義	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	大森朋子 神津敏嘉 山上怜奈 大塚ひなこ 畜産試験場酪農肉用牛部職員				
授業の到達目標	家畜に関する基礎的な知識を再確認し、改良や繁殖、飼養管理に応用できるようになる。				
授業の概要	家畜に関して全般的な基礎的な知識を身につけること。				
使 用 教 科 書	新版 家畜飼育の基礎				
主 な 参 考 図 書	日本飼養標準・肉用牛(2008年版) 日本飼養標準 家禽(2011年版) 中央畜産会				
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、出席日数等から総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる(講義内容に関するレポートの作成を課す場合あり)。				

授業計画				
項 目	教 授 内 容	講義	演習	
1 乳牛	哺育・育成:乳用子牛の誕生から初産分娩までの 発育・管理について 乳用牛の生理・管理:繁殖サイクル、搾乳管理について	6		
2 肉用牛	肉用牛(哺育・育成牛、繁殖牛、肥育牛)のライフサイクルおよび発育特性、代謝生理・内分泌学的な観点からの飼養管理方法について	6		
3 豚 ○肥育豚の飼養管理 ○繁殖豚の飼養管理 ○最近の養豚をめぐる情勢	出荷に至るまでの飼養管理について 交配～妊娠～分娩・離乳時の飼養管理について アニマルウェルフェア、環境対策等について	6		
4 地鶏 ○肉用鶏の育種および飼養管理 ○肉用鶏の管理および栄養 ○鶏肉の品質と成分	肉用鶏の育種方法と家畜改良センターおよび公立試験研究機関の役割について学習する。 肉用鶏の飼育方法、栄養素の種類と役割、養分要求量等について学習する。 鶏肉の品質と成分に関して学習する。	6		
5 生産新技術	専攻畜種の生産新技術について学習する。	8		
6 環境対策	専攻する畜種の環境対策について学習する。	6		
7 暑熱対策	専攻する畜種の暑熱対策について学習する。	7		

科 目	家畜家畜論	講義 単位 実習 5 単位	時間 225 時間	形態:実習	畜産研究科
講義時期:前期・後期		形態:実習	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	外部講師 畜産試験場酪農肉用牛部職員・養豚養鶏部職員				
授業の到達目標					
授業の概要	実習				
使 用 教 科 書	なし				
主 な 参 考 図 書	なし				
成績評価の方法	出席、実習態度により50点以上を合格とし、次のとおり評価する。 100～80点:優 79～60点:良 59～50点:可				

授業計画				
項 目		教 授 内 容	講義	実習
1	搾乳・削蹄	乳牛の削蹄技術		12
2	肥育(肉用牛)	肉用牛の肥育技術		12
3	肥育(豚)	豚の肥育技術		12
4	肥育(鶏)	肉用鶏の飼養管理技術		12
5	搾乳・肥育			60
6	育成(乳牛)	乳用牛の育成技術		12
7	育成(肉用牛)	肉用牛の育成技術		12
8	育成(豚)	豚の育成技術		12
9	育成	乳用牛の育成技術		60
10	分娩前後管理	乳用牛の分娩前後管理技術		21

科 目	家畜衛生学	講義 2 単位 演習 単位	30 時間 時間	形態:講義	畜産研究科
講義時期:前期・後期		形態:講義	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	橋本淳一 藤森祐紀 小林憲一郎 大塚ひなこ 畜産試験場酪農肉用牛部職員				
授業の到達目標	家畜を飼養するにあたり伝染病の基礎知識を学び、伝染病の早期発見、予防に臨機応変に対応できる人材を育成する。 滅菌や殺菌、消毒法について特徴を理解する				
授業の概要	家畜を飼養する際に理解していなければならない衛生管理について				
使 用 教 科 書	家畜人工授精講習会テキスト 新版 家畜飼育の基礎				
主 な 参 考 図 書	家畜伝染病予防法 飼養衛生管理基準(各畜種)				
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、出席日数等から総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる(講義内容に関するレポートの作成を課す場合あり)。				

授業計画				
項 目	教 授 内 容	講義	演習	
1 乳牛伝染病	子牛の下痢、牛肺炎。白血病、BVDMD、牛ヨーネ病の概要について	4		
2 肉牛伝染病	殺菌、滅菌について:殺菌、滅菌について違いとその方法について理解する 消毒について:消毒薬の種類や用途、使用法について理解する	4		
3 豚伝染病	豚における疫学、防疫、グループ生産システム 豚における病気の原因、感染性疾病、伝染病の拡がり方について 感染性疾病(ウイルス、細菌、寄生虫による病気)	4		
4 鶏伝染病	場でワクチン接種している主な家さんの伝染病(下記)について、病性病態を理解する。 ND(ニューカッスル病)、IB(伝染性気管支炎)、FP(鶏痘)、MD(マレック病)、IBD(鶏伝染性ファブリキウス嚢病)、MG/MS(マイコプラズマ病)、サルモネラ菌症、コクシジウム症(他内部寄生虫症)	4		
5 農場衛生管理	専攻する畜種の農場衛生管理について学習する。	6		
6 農場防疫	専攻する畜種の農場防疫体制について学習する。	8		

科 目	家畜衛生学	講義 単位 実習 2 単位	時間 90 時間	形態:実習	畜産研究科
講義時期:後期		形態:実習	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	畜産試験場酪農肉用牛部職員・養豚養鶏部職員				
授業の到達目標	乳牛、肉用牛、豚の疾病対策				
授業の概要	実習				
使 用 教 科 書	なし				
主 な 参 考 図 書	なし				
成績評価の方法	出席、実習態度により50点以上を合格とし、次のとおり評価する。 100～80点:優 79～60点:良 59～50点:可				

授業計画				
項 目	教 授 内 容			講義 実習
1 酪農衛生	乳房炎を主体とした衛生管理			12
2 肉用牛衛生	肥育牛の慢性疾病対策			12
3 豚の去勢実習	豚の去勢技術			12
4 鶏の解体実習	肉用鶏の解体実習			12
5 健康評価	乳牛の生体での健康評価			18
6 疾病対応	乳牛の乳房炎、肉用牛の慢性疾病への対応			12
7 食肉処理場・家畜保研修	家畜衛生関連施設の視察研修			12

科 目	畜産施設機械論	講義 1 単位 演習 単位	15 時間 時間	形態:講義	畜産研究科
講義時期:前期・後期		形態:講義	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	古畑祥吾 西野広美				
授業の到達目標	飼料用とうもろこし(子実用を含む)および牧草の収穫に用いる作業機の特性を理解するとともに、密植ソルガムや牧草をロールベアで収穫する作業体系のポイントを理解する。 堆肥化施設の種類、適正な発酵条件、温暖化ガスの発生、臭気の規制等を理解する。				
授業の概要	飼料作物の収穫に用いる作業機の特性或収穫作業体系、堆肥化施設について学ぶ				
使 用 教 科 書	農業機械の構造と利用				
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、出席日数等から総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる(講義内容に関するレポートの作成を課す場合あり)。				

授業計画			
項 目	教 授 内 容	講義	演習
1 飼料生産・収穫機械 ○とうもろこしの生産収穫作業体系 ○イネ科主体採草地の収穫作業体系 ○密植ソルガムの収穫作業体系 ○省力のための作業技術	サイレーン用とうもろこしの生産・収穫・調製に用いる作業機と子実とうもろこしの収穫・乾燥調製に用いる作業機 予乾促進のための技術と目標水分 ロールベア収穫に用いる作業機 酪酸の生成を抑えるロールベア収穫方法 簡易耕、ロールベアカッターの利用 ロールベア運搬方法の工夫	12	
2 堆肥化施設	堆肥化施設の臭気規制を理解し、堆肥の適正な製造工程を理解する 堆肥化施設における地球温暖化ガスの発生活動を理解する 堆肥化施設の種類、堆肥化方法を理解する	3	

科 目	畜産施設機械論	講義 単位 実習 2 単位	時間 90 時間	形態:実習	畜産研究科
講義時期:前期・後期		形態:実習	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	畜産試験場飼料環境部職員				
授業の到達目標	飼料生産に用いる機械の特性を理解するとともに、堆肥化施設における堆肥の生産過程を理解する				
授業の概要	実習				
使 用 教 科 書	なし				
主 な 参 考 図 書	なし				
成績評価の方法	出席、実習態度により50点以上を合格とし、次のとおり評価する。 100～80点:優 79～60点:良 59～50点:可				

授業計画			
項 目	教 授 内 容	講義	実習
1 生産機械利用	牧草・トウモロコシ・ソルガムの播種		24
2 生産機械利用	トウモロコシ・ソルガムの収穫		24
3 生産機械保守	生産機械の保守・点検		24
4 堆肥化施設	堆肥化施設における堆肥の適切な製造 臭気・地球温暖化ガスの発消長		18

科 目	飼料草地学	講義 2 単位 演習 単位	30 時間 時間	形態:講義	畜産研究科
講義時期:前期・後期		形態:講義	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	清沢敦志 伊藤達也 有野陽子 古畑祥吾 天野瑠偉				
授業の到達目標	飼料生産に関する専門知識を身につける 飼料の発酵・貯蔵の原理を理解し、適正な管理法を習得する。 飼料作物(ソルガム)の育成、育種法および栽培、利用方法を理解する。				
授業の概要	飼料生産に関する専門知識について学ぶ				
使 用 教 科 書	「目で見える牧草と草地」「目で見える飼料作物のすべて」				
主 な 参 考 図 書	分析センター通知 日本標準飼料成分表				
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、出席日数等から総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる(講義内容に関するレポートの作成を課す場合あり)。				

授業計画			
項 目	教 授 内 容	講義	演習
1 自給飼料概論	自給飼料の必要性について 反芻家畜における自給飼料の利用 安全な飼料作物生産について(JGAP)	4	
2 栄養計算	自給飼料分析結果等による通知に記載されている分析項目の用語についてレポートにまとめる。 トウモロコシサイレージにおけるTDN計算 牧乾草・牧草サイレージにおけるTDN計算	6	
3 飼料作物	飼料作物の生産技術 飼料用とうもろこしの生産と利用 家畜における飼料作物の利用	4	
4 牧草	牧草の生産技術 地球温暖化が牧草栽培に与える影響 家畜における牧草の利用	4	
5 収穫・保存	自給飼料の収穫と保存方法について	4	
6 発酵・貯蔵	飼料の発酵の仕組み、適正な発酵条件について サイレージの発酵施設の種類、特徴について	4	
7 栽培技術	ソルガム類の育成および育種法 収量、品質を考慮した品種の選択と栽培方法	4	

科 目	専攻研究	講義 単位 実習 3 単位	時間 135 時間	形態:実習	畜産研究科
講義時期:前期・後期		形態:実習	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	畜産試験場 酪農肉用牛部・養豚養鶏部・飼料環境部 研究員				
授業の到達目標	特に興味のある項目について、研究員の指導の下、調べることを学ぶ。				
授業の概要	実習				
使 用 教 科 書	なし				
主 な 参 考 図 書	なし				
成績評価の方法	発表会等で実科研究科長、各部長が採点し50点以上を合格とし、次のように評価する 100～80点:優 79～60点:良 59～50点:可				

授業計画			
項 目	教 授 内 容	講義	実習
1 学習の範囲から、特に興味・関心の高い分野を選び、具体的な研究テーマを一課題づつ設定する。	担当研究員の指導の下、調査、取りまとめにより発表会で発表し評価を得る。		135

科 目	農場実習	講義 単位 実習 3 単位	時間 135 時間	形態:実習	畜産研究科
講義時期:前期・後期		形態:実習	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	畜産試験場職員				
授業の到達目標	専攻する畜種の飼養管理を幅広く学ぶ				
授業の概要	実習				
使 用 教 科 書	なし				
主 な 参 考 図 書	なし				
成績評価の方法	出席、実習態度により50点以上を合格とし、次のとおり評価する。 100～80点:優 79～60点:良 59～50点:可				

授業計画			
項 目	教 授 内 容	講義	実習
1 各実習部5か所における基本実習	各部における基本的実習		135

科 目	現地実習	講義 単位 実習 3 単位	時間 135 時間	形態:実習	畜産研究科
講義時期:前期		形態:実習	実務経験者による講義の有無:有		
担当講師	先進農家 畜産試験場職員				
授業の到達目標	畜産農家において、畜産に関する知識と技術を習得するとともに、地域における社会生活を体験する。				
授業の概要	長野県内の畜産農家、法人牧場に10日間、宿泊ないし通いで実習し、畜産に関する知識と技術を習得するとともに、就業に必要な社会的スキルを学びつつ、地域における社会生活を体験することめざす。				
使 用 教 科 書	なし				
主 な 参 考 図 書	なし				
成績評価の方法	出席、実習態度、レポート、報告書等により50点以上を合格とし、次のとおり評価する。 100～80点:優 79～60点:良 59～50点:可				

授業計画				
項 目	教 授 内 容	講義	実習	
1 現地実習	この実習は、現地において畜産に関する知識と技術を習得するとともに、地域における社会生活を体験することを目的とする。		123	
2 頭絡・縄の結び方	畜産試験場職員から牛の保定等に必要な頭絡・縄の作り方結び方を実習する。		12	

科 目	特別講座	講義 2 単位 演習 単位	30 時間 時間	形態:講義	畜産研究科
講義時期:前期・後期		形態:講義	実務経験者による講義の有無:有		
担当講師	中央家畜市場、先進農家 畜産技術発表会、明日の長野県農業を担う若人の津沿い等				
授業の到達目標	必要な資格取得に向けた講義と家畜の取り扱い、農業に携わる者の心構えについて学ぶ				
授業の概要	テキストと資料、パワーポイント等を用いて対話形式で理解度を確認しながら講義を行う。				
使 用 教 科 書					
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	講義内容に関するレポートの作成を課し、履修態度、出席日数、理解度等から総合的に評価する。				

授業計画				
項 目	教 授 内 容	講義	演習	
1 特別講義	「アニマルウエルフェア」信州大学准教授による	8		
2 中央家畜市場視察研修	木曽町にある中央家畜市場視察を視察研修、黒毛和種子牛の流通について学ぶ。	6		
3 社会学	家畜衛生の基本事項	2		
4 牛の調教	黒毛和種の手入れと調教について外部講師の指導を受ける。	4		
5 畜産技術研究発表会	各種団体が合同で長野市で開催される畜産技術研究発表会に出席し畜産技術を学ぶ。	6		
6 長野県の畜産	畜産専門技術員から長野県の畜産の現状を講義願う。	4		

科 目	特別講座	講義 単位 実習 1 単位	時間 45 時間	形態:実習	畜産研究科
講義時期:後期		形態:実習	実務経験者による講義の有無:有		
担当講師	先進農家				
授業の到達目標	食品加工研修 乳牛の品質検査				
授業の概要	現地での実習				
使 用 教 科 書	なし				
主 な 参 考 図 書	なし				
成績評価の方法	試験ないしレポートにより50点以上を合格とし、下のとおり評価する。 100～80点:優 79～60点:良 59～50点:可				

授業計画			
項 目	教 授 内 容	講義	実習
1 食品加工研修	長野県内で先進的にヨーグルト、チーズ、プリンなどを製造している農家工場において、加工について研修する。		45

